

⑧ 境界線なんか、いぐらでも引けんだべさ

相談マニアの畠山さんがなくなった。
急性心不全だった。太りすぎだった。
ナスがうますぎて、食いすぎたという話だ。しかも天
ぷらで。

長男二郎と次男三郎が遺産の農地を分けることにな
った。

道路沿いに畑があった。長方形を2つくっつけた
形だった。

畠山さんの遺言(ゆいごん)があった。
「面積を測らずに、1本の直線で境界線を引け」
算数かぶれをうかがわせる遺言だった。

1本の直線で
境界線を引け



生前、畠山さんから、春田さんの数々の見事な采配を聞かされていた二郎は、「俺にまがせろ」と絵のように赤い線を引いてみた。

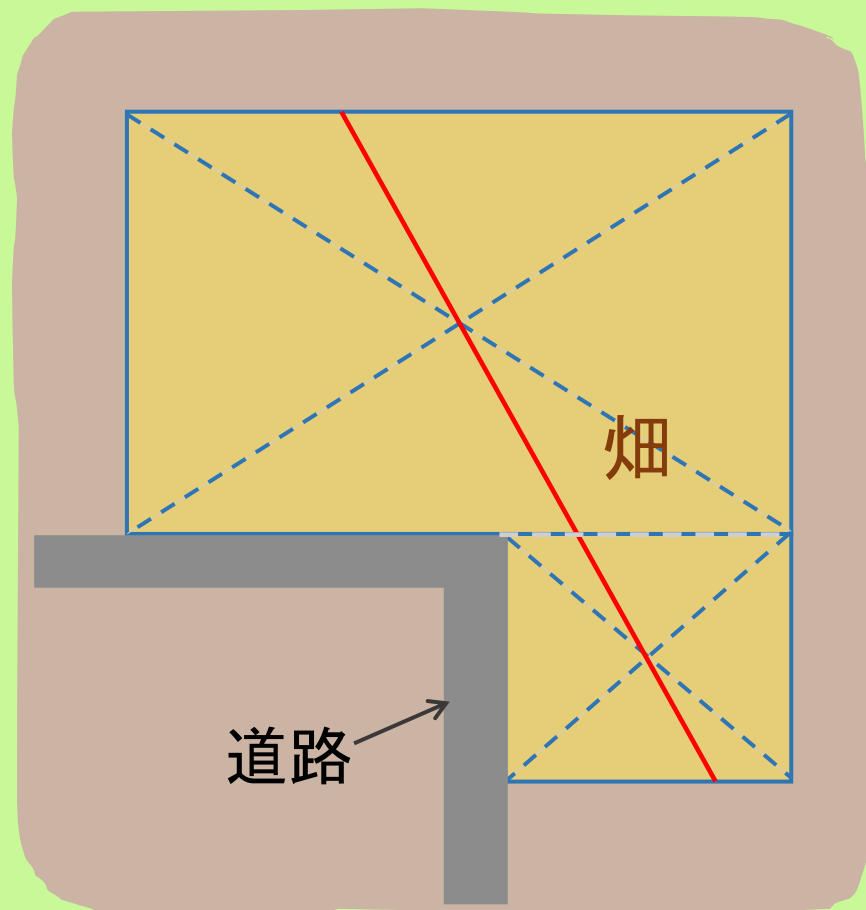
三郎が言った。
「これでは、片方が道に面していないから不便だあ」

その通りだあ。

遺言は守らにやなんね。

さて、どうすんべ？

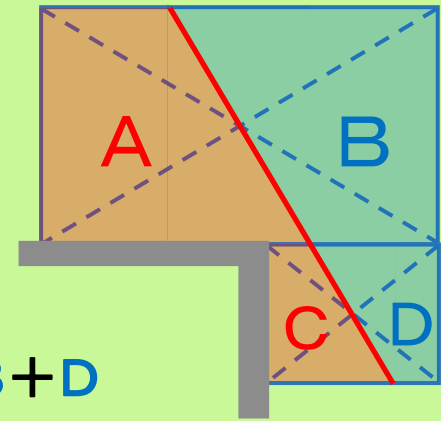
困った二郎は、結局、春田さんに相談を持ちかけた。



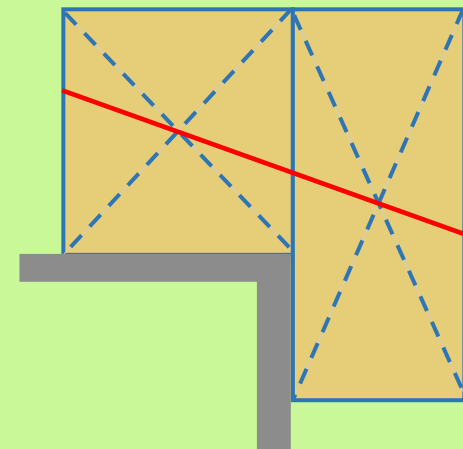
次の日、春田さんは二郎を畑に呼んだ。

「おめえの考え方は正しい。二つの長方形とも、この一本で等分される」
と春田さんは二郎にいった。
「2つの長方形の取り方を変えれば、別の線で等分することもできる。だけんども、この線でも片方は道に面してねえなあ・・・」

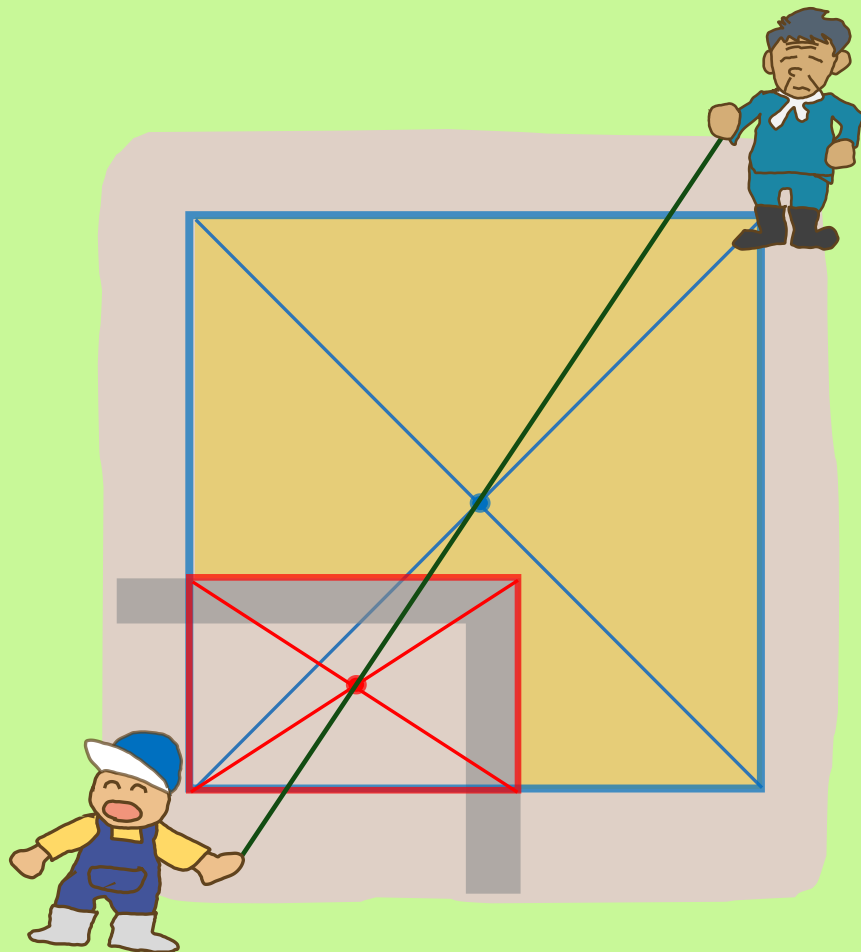
$$\begin{aligned} A &= B \\ C &= D \\ A + C &= B + D \end{aligned}$$



春田さん、考えた。
ほがに線の引き方はねえんだべか・・・



これでもだめかあ



思案のあげく、春田さんは別の長方形を描いた。
絵の青い大きな長方形と、何と畑の外の赤い長
方形だあ。

そして、二郎さんに、それぞれ対角線をバツテン
するようにロープを張らせ、

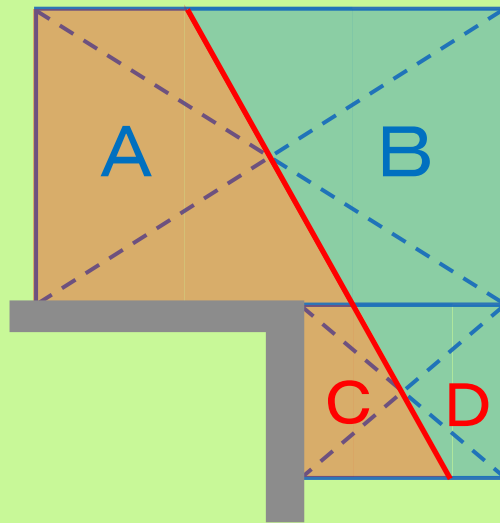
「ロープのそっちはしさをかって、向こうに回れ。2
つの交点を通るようにピンと張れ」
いつものセリフだった。

そう、これが解決ウルトラCの境界線。
「なるほど、両方、道に面している。これなら、どっ
ちでも文句あんめえ」

「だども、おれ、まだわかんねつけ、説明してけろ」
二郎は春田さんに聞いた。
春田さんの説明は、こういうことだった。

長方形が2つくっついている場合は、足し算で考えればいい。半分こと半分こを足せば広さは同じだあ。

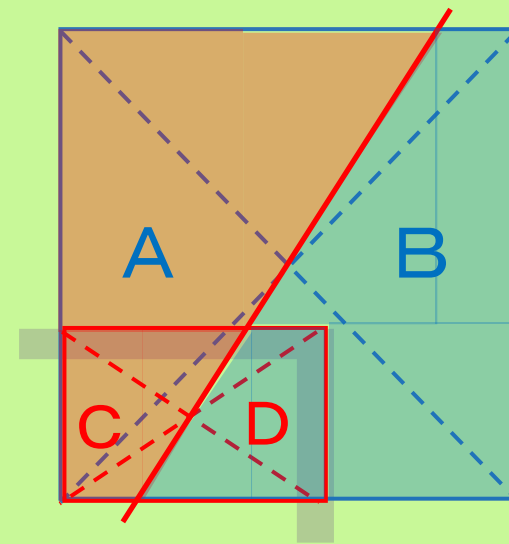
一方が他方の中に入っているときは、引き算で考えればいい。半分こ大から半分こ小を引いても、広さは同じだんべ。



$$A + C = B + D$$

$$A = B$$

$$C = D$$



$$A - C = B - D$$

「合点がいった！」
と三郎。



「え・・・ おめえ、三郎だったんが？
・・・ナス持ってぐか？」

